

第8回山ノ内町議会報告会実施結果報告書（東部上）

日 時	平成26年11月13日（木）午後7時～午後8時41分
場 所	和合会館
参加人数	住民参加者：11人 議員15人 事務局1人
地元協力団体	沓野区、沓野組、洪湯組、横湯組
議員役割分担表	<p>総括責任者 山本一二三</p> <p>司会進行 小根澤 弘</p> <p>常任委員会報告者</p> <p>総務常任委員会 徳竹 栄子</p> <p>社会文教常任委員会 高田 佳久</p> <p>観光経済常任委員会 山本 良一</p> <p>広報常任委員会 高田 佳久</p> <p>議会活性化研究会 西 宗亮</p> <p>記 録 者 高山 祐一</p> <p>出席議員 小根澤 弘・望月 貞明・西 宗亮・田中 篤・布施谷裕泉・高山 祐一 高田 佳久・山本 良一・徳竹 栄子・湯本 市蔵・小渕 茂昭 山本一二三・小林 克彦・渡辺 正男・児玉 信治</p>
次第（担当者）	<p>1. 開 会 司会者</p> <p>2. あいさつ</p> <p>(1)主催者 児玉議長</p> <p>(2)共催者代表 関彦吉沓野区長</p> <p>3. 報告事項</p> <p>(1)議会常任委員会等報告</p> <p>①総務常任委員会 徳竹 栄子</p> <p>②社会文教常任委員会 高田 佳久</p> <p>③観光経済常任委員会 山本 良一</p> <p>④広報常任委員会 望月 貞明</p> <p>⑤議会活性化研究会 西 宗亮</p> <p>(2)質 疑</p> <p>4. 懇談事項</p> <p>テーマ「人口減少と地域防災について」</p> <p>5. 閉 会 司会者</p>

<p>報告事項の質疑</p>	<p>質問：水防団の解散について、連絡はきているが新しい組織はできているのかどうなっているのか。</p> <p>回答：8月に区長会と会談をしたが、正式に決まってない。「機能別消防団」に、地元の実情を踏まえ改組する予定だ。今後条例改正を経て、3月議会で正式決定するのではないかな。</p> <p>質問：町税の滞納額はどのくらいか。</p> <p>回答：6億5,480万余です。特に多いのは「固定資産税」で約5億9,600万円。</p> <p>質問：5年前、10年前に比べて増減はどうか。</p> <p>回答：ほんの少しの収納率アップと「不納欠損」処理により、減っている。</p> <p>質問：新斎場には「ペット」の葬儀はできるのか。</p> <p>回答：人間のみでペットはできない。</p> <p>質問：東山クリーンセンター改修工事について、どの程度の工事か。</p> <p>回答：焼却炉の改修がメインです。また、発電システムを変更して電気料金が3分の1程度になる。</p> <p>質問：炉の工事中は焼却に支障ないのか。</p> <p>回答：工事は1基ずつやるのでよその施設には頼らなくてもできる。</p> <p>※ その後の北信保健衛生施設組合からの報告で、2週間程度長野の施設で焼却する予定とのこと。</p> <p>質問：外国人宿泊者が年々増加しているが、通訳ボランティアの現状と今後の対応は。</p> <p>回答：登録者はかなりいるが、常時活動できる方は限られているのが現状である。増やさざるをえない状況ではあるが難しい状態である。</p> <p>質問：宿泊人員の算出方法は。昔は県の遊興飲食税をもとに算出していたが。</p> <p>回答：現状は入湯税をもとに高速道出口、リフトの搭乗人数、要所要所のホテル旅館の宿泊数等、積み重ねを総合的に判断している。</p> <p>質問：ある程度確実な数字をつかむべきと思うがいかがか。</p> <p>回答：議会での質問に町の答えはそういうことだが、県が正確な数字を持っているのなら聞いてみたいと思う。</p> <p>質問：町も県も観光予算は相当額費やしているのに、適当な数字を上げている。やり方はあると思う、例えば各旅館から宿泊人員の報告をしてもらおうなど。</p> <p>回答：正確な数字を得るための施策を執るよう町・県要望するための検討をする。</p> <p>※ 観光商工課に確認したところ、観光入込客数については、国・県からの算定基準により算出しているとのこと。</p> <p>質問：火災の出火原因は教えられないと言われたが。</p> <p>回答：誰が悪いということになればまずいので教えられないのでは、火災原因はタバコの火の不始末とか漏電、放火等によるとか統計の中で出てくる。個人情報壁がある、出火原因はほぼ限られた中で発生するのでそこを注意して生活していただきたい。</p> <p>質問：地元消防団が最後に現着、そして誰が指揮をとっているのかわからない。過去に沓野の大火があった、河川を利用した消火を研究して欲しい。</p> <p>回答：機能別消防団の設置の必要性がここにある。消防OBを中心に考えている。</p>
<p>懇談会の意見</p>	

質問：人口減少の対応として、季節的に人口を増やせないか。夏なら来られるとか冬なら来られるとか考えられないか、町としての取り組みを聞きたい。

回答：NPO 法人ふるさと回帰センターの答えは、現実には傾向が変わってきている、以前は最後の終の棲家的な考えの方が多かったが、実際には都会の若者が地方に行きたい欲求が高まってきている。それに対して当町の対応は残念ながら遅れている。そう積極的ではないように感じている。ケースバイケースにきめ細やかな対応が求められている、町に提言していく。

※ 総務常任委員会として、若者の価値観の多様化している中で、Iターン（都会出身者が地方に移り定住すること）やUターン（都会から出身地に戻る）の施策として、季節的に働いている方々について、山ノ内町への定住につながるような施策を要望したい。

回答：NPO 法人は「職と暮らし」に対する具体的な話を持ってきて欲しいと言っている。受け皿づくりを地元でやって欲しい。「空き家があるから」「水と空気がいいから」だけではもうダメ。例えば果樹園の後継者、旅館の後継者、などの将来の具体的な生活設計まで見据えた提案が必要である。

質問：後継者不足のため「ブランド化」といっても10年持たないではないか、長続きする施策を構築して欲しいが。

回答：東一青果の話では、農業後継者は青森よりも長野のほうが恵まれているが観光業はなかなか難しい現状である。ユネスコエコパークについては山ノ内町の中でもそうだが、日本中となるとまだまだ認知度が低い、果樹でいえば JA 志賀高原のほうが知名度は高いそうである。

回答：東一青果の担当部長の話では、青森県72万ケース長野県が40万ケース、数の上では勝負あり、味については長野県山ノ内町のりんごは数値に表せない「コク」がある、伊勢丹、紀伊國屋、千疋屋でも欲しい。しかし40万ケースしかない、直販が増えているが JA 志賀高原のブランドがあるから高い値がつく、市場は無視できないのでこれ以上生産量を減らしてはならない、信州りんご3兄弟を中心としたりんごで当分の間大丈夫だということである。

回答：町でも定住促進の予算はつけている、平成26年から28年までの3か年若者定住住宅改修補助、空き家改修補助等に1,300万円、家賃補助で450万円等。しかし必ずしも定住に結びついていない現状、もっとニーズに合った施策と予算を付けないと効果が上がらないと感じている。

質問：外から呼び込む施策ばかりで内から出て行かない施策について、もっと考える必要がある、結婚することも難しい、農業と観光だけでは行き詰まっている、他の産業の誘致も必要では。

回答：婚活支援については25年度決算審査部会意見で「婚活支援には、行政が積極的に関わることをつけた、具体的には行政は社会福祉協議会に丸投げ状態で、過去の実績も数組しか結婚してない、行政は出会いの場を作るためのセミナーなどを開催している。今後は民間の若い世代の人たちが「合コン」や「飲み会」等の出会いの場に対して支援すべきという意見も昨年度つけた。きっかけづくりと働く職場、安定した収入の両面での支援が大切な施策と感じている。

